

1 学校教育目標
三綱領のもと良き伝統を守り、豊かな人間性と礼節を身につけ、心身共に健康で逞しい、自らの可能性に挑戦し進路実現を図る、次代を担う工業人材を育成する。

2 本年度の重点目標
1 学力の向上 ~基礎学力向上、授業改善~
2 工業教育の充実 ~ものづくり教育、産学官連携による人材育成~
3 人間力の向上 ~基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上~
4 部活動の活性化 ~文武両道、競技力向上~
5 働き方改革 ~時間外勤務時間の削減、校務の整理、削減~

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標の達成 生徒、保護者の理解度 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・ミッションや教育目標、重点目標を生徒、保護者、職員で共有し、各部・各科・各学年で積極的に取り組む。 ・職員アンケートで学校目標への理解と取組を100%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会や職員会議等で、本校のスクール・ミッションについて説明、その達成に不可欠な取組を実践する。 ・「教育目標達成のための具体的取組の視点」を職員に明示し、各個人の年間目標に反映させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートでは、スクール・ミッションや学校経営方針が職員に周知されていると回答した職員が89.2%(R2:95.4%)で、昨年度より若干減少した。スクール・ミッションは今年度から設定した目標ということも減少の理由と考える。今後、様々な機会を捉えて学校経営方針等を伝え、全職員が同じ目標の下、同じベクトルで学校として全ての取組を推し進める必要がある。 ・各部各科の目標は明示できたが、その達成評価はBが多く、より高い評価を可能とする取組を考える。
			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで学校目標の理解を85%以上にし、協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や学年保護者会等を利用して周知 ・保護者会新聞「清流」やホームページ活用での周知 		C
	目標達成に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> 各部各科の取組と目標達成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の評価で、B評価以上を85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月当初に主任主事及び各科長との面談を実施し、それぞれの取組の現状と課題を把握 ・月2回の工業科主任会において、各科の取組や情報を共有し、学校としての横のつながりを強化する。 ・組織的な校務運営による目標達成を図るために、年度途中での校務分掌の見直しと校務の整理・削減を実施する。 	A	
	信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会との連携 保護者会活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、保護者会役員会の開催年間10回以上実施し、活性化を図る。 ・様々な学校活動への保護者の協力とそのPR ・家庭訪問を実施し、生徒・保護者の理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者役員の各科・学年・各委員会の連絡網を作成し、コロナ禍でも学校と保護者の連携を強化する。 ・年間の行事予定を配布すると共に、学校のホームページ等を利用して日頃の活動の紹介を行う。 ・家庭訪問や三者面談を実施し、生徒の理解、家庭の理解に努める。 		B
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化 超過勤務時間の削減 年休等の取得の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直しを定期的に行う。 ・超過勤務時間を正確に把握し、面談を実施する。 ・部活動の練習計画の提出と休部日の設定 ・教職員の働くことへの意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の廃止や簡素化を行い、授業時数を確保する。 ・業務においては、次年度への取組を意識した資料の整理を行い、マニュアルの作成に繋げる。 ・考査期間等に定時退勤日の設定し、年休の取得を促す。 ・ストレスチェックの結果を参考に育成面談や産業医への相談につなぐ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により学校行事は簡素化や縮小になったが、できる範囲での実施することができた。9月と2月には分散登校を実施し、授業時間の確保と生徒の学習支援に心がけた。 ・業務のマニュアル化については、各部署まかせとなってしまう、課題が残った。 ・月一回の衛生委員会を実施し、学校医にも参加していただき職員の健康管理について協議した。超過勤務の職員に対しては校長面談を行い改善を促した。超過勤務時間の大半は部活動に関するものであったり、期間的な指導によるもので、指導方法の工夫や指導体制の改善が行われ、大幅に減少した。 ・ストレスチェックの結果は特に問題はなかったが、2人の教員が管理職に結果の開示を行った。2人と面談し、産業医への面接等を紹介したが、必要はないとのことだった。 	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	計画的な学習指導の充実	・計画的な学習指導と適正な評価	・年間をとおした計画的な授業及び基礎学力定着と技能の習得 ・課題解決のための「思考力・判断力・表現力等」の育成	・年度当初におけるシラバス作成及び、最初の授業での周知 ・授業中の活動やレポート・作品・発表等、生徒の評価方法（観点別評価）の工夫・改善 ・学びの基礎診断ツールの活用 ・各教科と連携し、基礎学力定着を図る。	B	3学期に指導教諭とICT活用推進委員会を中心として授業改善や評価を確立するための小組織を編成した。現在活動中で2月中旬頃、活動結果を職員へ周知する予定である。 学びの基礎診断を年に2回実施した。診断結果をもとに説明会を2年生は7月に、1年生は11月に実施した。1月に実施の説明会も予定している。また、診断結果を国語科、数学科、英語科に渡すことでそれ以降の指導に役立った。
	授業改革	・分かる授業、興味関心意欲を向上させる授業の実践	・授業評価「教材の工夫がされ取り組みやすい」60%以上 ・授業評価「学んだ知識等を活用した思考や表現活動」60%以上	・主体的・対話的で深い学びの実践 ・ICT機器の積極的な活用 ・授業改善職員研修の実施 ・研究授業・公開授業の更なる活性化 ・授業アンケートによる生徒の実態把握と教師の授業改善	C	生徒による授業評価アンケート（第2回）において「教材の工夫がされ取り組みやすい」の項目で「そう思う」が54.7%（第1回49.6%）と回答した。目標達成までわずかとなった。「学んだ知識等を活用した思考や表現活動」の項目で「そう思う」が40.5%（第1回34.3%）と回答した。目標達成まではまだまだであった。
	基礎学力の向上	・積極的かつ意欲的に取り組む姿勢の醸成	・各学期末における欠点保持者数を昨年度比減 ・英語の基礎力強化	・定期考査、各種テストに向けた事前・事後指導の徹底 ・毎朝、英語会話の学習を全生徒対象に実施する。	B	定期考査一週間前から部活動や朝課外を中止し、学習時間の確保を促し、考査に実力を出し切るような環境を作った。昨年度より合計で10人程度欠点者は減少したが、もう少し減少数を増やすよう支援が必要である。 朝の英会話は全生徒、毎日真面目に取り組んでいる雰囲気は、学校教育が落ち着いてスタートできる状況にある。
キャリア教育（進路指導）	学校紹介就職指導の充実	・学校紹介就職希望者の進路実現に向けた学年・科・地域社会との連携	・就職採用試験一次応募での合格率90%以上 ・学校紹介就職希望者の年内全員内定 ・学校紹介就職者の県内就職率50%以上	・新型コロナウイルスの影響に対応した就職関係スケジュールに応じた、生徒・保護者への適切な進路情報の提供。 ・県内就職に繋がる取組を強化する。誘致企業やプライム企業に関する情報を積極的に生徒に伝える。 ・社会人・職業人としての自立を促す5S活動や2A運動、ものづくり教育・グローバル教育の推進	B	一次応募内定率 96.3%（207人/214人＋5.6P）非常に良好な結果となった。 遠隔通信による見学会や試験にはPC14台を大会議室に設置し、対応した。ヘッドセット等の必要機器数は、昨年度からの対応で整ってきたが、予想外の通信障害が起き、対応を迫られた。 7月の本校への訪問事業所は500社を超える。今後一層多くの職員に応援を仰ぎ、各科各部の職員一丸となって進路活動に臨む体制を整えたい。
	公務員就職指導の充実	・公務員就職希望者の進路実現に向けた学年・科・官庁との連携	・公務員就職希望者の90%以上の最終合格	・意欲的な出願・受験（特に技術職への応募）を促す個人面談や外部講師による講座等の計画的実施 ・課外授業参加への環境づくりと生徒の実情に即したきめ細やかで丁寧な個別指導の充実 ・生徒が安心して受験に臨むことができる出願手続きに関する指導体制の確立	B	本年度は多数の国家一般職のほか、国立大学法人技官にも2人合格している。合格率については、昨年度を上回る値で当初の合格率90%を達成できた。 国立大学等職員3名内定をはじめ、熊本県職員6名、国交省九州地方整備局6名、熊本市3名、熊本県警3名内定をはじめとする好成績となった。SPH事業の影響で、昨年度に引き続き土木科の健闘が目立った。 九州国土交通省内定者は、部活動主将副主将経験レベル生徒のみだった。部活動とのハイブリッド指導が重要である。
	進学指導の充実	・進学希望者の進路実現に向けた学年、科、上級学校との連携	・国公立大学進学希望者の80%以上の合格	・将来の目標実現に必要な進学への意識を高め、自ら学習する姿勢を育む計画的なキャリア教育の推進 ・生徒の能力を最大限に引き出す進学指導の強化と、課外や模試、進学プログラムへの参加促進 ・各科との連携による面接指導、小論文指導等の充実	B	国公立大学希望者は21人で総合型選抜（旧AO）は4人（大分大学3、熊本県立大1）、学校推薦型選抜（推薦Ⅰ・共通なし）1人（熊本県立大学1）合格。学校推薦型選抜（推薦Ⅱ・共通あり）は3人（熊本大2）合格。高専編入希望者は3人（熊本高専3）合格。専門高校推薦で有利に受験できる大学を個別面談などで案内しているが、多くの生徒が九州内の大学のみ視野にあるため受験先が限定されている。課外で培った学力も、多様化する入試において課される口頭試問や論文試験などに繋がりがきれていない。一人一台端末を有効活用して、課外の復習を自学自習するシステム作りが必要だと感じている。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成	・出席率向上	昨年度比 ・遅刻10%減 ・欠席10%減 ・皆勤、精勤者計75%達成	・登校指導による声かけ指導を充実させ、担任、科、部活動顧問との連携強化。 ・情報交換会による生徒の状況を把握し、早期対応に取り組む、改善に努める。また、教育相談部、関係部署と連携して長欠者の減少を図る。	C	1年生において、不本意入学による目的意識の低下、部活動の不応、家庭環境の悪化等で、今年度は長期欠席者が増加している。2、3年生は2学期に入り欠席、遅刻が増加した。 長欠者に対しては、チームとして対応するよう呼びかけている。具体的には、欠席1日目担任対応、欠席3日目家庭訪問、欠席7日以上科主任、学年主任面談を徹底している。
		・身なり（服装髪型）の徹底	・服装違反数（登校指導）昨年度比10%減	・登校指導での服装指導と検査の充実。 ・連携指導による徹底指導と意識の高揚。	B	1年生が昨年度より服装検査違反件数が増加している。10月より検査方法を見直し、11月からは減少している。3年生は進路決定後に眉そり等で指導を受ける生徒がいることが、ここ数年の課題である。
		・交通規則遵守	・事故、違反件数昨年度比15%減	・交通講話等をはじめとする交通安全教育の充実と現地（学校付近危険箇所等）での登下校指導の実施。	B	事故件数は昨年並みである。定期的な街頭指導を実施し、啓発活動も昨年度より強化しているが、部活動後の自転車のマナーが悪かった。部活動顧問と連携した交通指導を継続していく。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
		・規範意識高揚	・特別指導件数全校生徒数の1%以内 ・2A運動の徹底 ・情報モラルの育成	・学級・学年・科・部活動等様々な機会をとおしてし、愛校心を育み、主体性を発揮できる人材を育成する。 ・生徒指導部報を毎月発行する。(携帯電話のモラルについて)	B	・特別指導件数は3件9名である。昨年度より、件数は減少しているが延べ人数が増加した。長期休業中に気が緩み、規範意識の低下が見られる生徒がいる。今後も、SNSに関するトラブルが心配されるので、情報モラル教育について強化していく。
		・防犯意識高揚	・盗難被害件数昨年比30%減 ・自転車二重ロック施錠率80%以上	・貴重品袋の活用を促す。学校行事等においては、校内巡視など警備の充実を図る。 ・毎月26日を二重ロックの日と定め、交通委員と連携しての声掛けの実施・点検を行う。	B	・今年度も、1学期は盗難が起こらなかったが、心配していた2学期に入り1件の盗難が発生した。共同で使用する教室での盗難については、各部においても貴重品、施錠の管理を徹底してもらっている。 ・学期2回、2重ロック点検を実施していることもあり、生徒の意識も高まっている。
	生徒会活動の充実	自発的な生徒会執行部の活動	・熊工生徒会の代表であるという自覚と責任を持ち、役割を確実に実行する。 ・明るく、思いやりのある気持ちで、互助の精神をもち、一致団結して活動する。	・毎週1回生徒総務会を実施し、コロナ禍における学校行事(クラスマッチ・体育大会・熊工祭等)の工夫・改善を図る。 ・毎月1回生徒会新聞を発行し、活動の記録を残すとともに全校生徒に周知する。	B	・新型コロナウイルス感染症流行のため、すべての行事が影響を受けた。体育大会や熊工祭など日々状況が変化する中、可能な範囲で計画・実施することができた。 ・挨拶運動や朝掃除ボランティア、募金運動も行った。今年も献血啓発を行い、献血者は過去最多だった。生徒会新聞は年間12号を発行できた。
人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	・人権教育推進委員会の充実	・6回以上の推進委員会の開催	・各LHR、職員研修、講演会についての事前検討、協議	A	・新型コロナウイルス感染症流行のため、多少の日程変更はあったものの目標回数はクリアできた。
		・LHRの充実	・豊かな人間性を身につけ、社会人に相応しい人権感覚の育成	・「自分も他人も大切にする」、「身近な人権課題」の学習 ・「言わない・書かない・提出しない」の徹底	B	・各学年のLHRでは例年行っている基本的な「身近な人権課題」に関する学習はできた。 ・「言わない・書かない・提出しない」の徹底はLHR及び受験報告書の確認もできた。
		・人権教育指導の共通意識	・全職員による人権教育指導	・相手を思いやり、不適切な「ことば」遣い、「行動」を常に意識し、全職員があるゆる教育活動の中で指導	B	・各教科やLHRを含めて様々な教育活動の中で指導できた。 ・特に学年集会や科集会ではコロナ感染症にも触れ、隣の友人の人権を身近に感じる指導をした。
	研修の実施	・校内、校外研修の充実	・全教職員の積極的な校外研修への参加(少なくとも40%以上の参加希望) ・教職員の人権資質向上	・2回以上の校内研修を準備 ・20項目以上の校外研修の選択肢を紹介し、参加の呼びかけ ・校外研修の書面による復講及び報告 ・「いじめ」の構造についてのさらなる理解	A	・校内研修は新型コロナウイルス感染症流行のため日程を変更せざるを得なかったが、2回できた。 ・校外研修についても同様な状況の中ではあるが、実施方法が変更になったが、できる限り参加しようとする姿勢があった。 ・「いじめ」についての学習はコロナ差別も含めて各クラスで実施した。
	命を大切にすることを育む指導	・自他の生命を尊重する心の育成	・全職員によるあらゆる教育活動での多角的なアプローチ	・各教科での授業内容との関連付け ・LHR、学年集会、全校集会等での実施 ・進路教育、人権教育、安全教育等との関連付け ・教育相談、特別支援、生徒指導、学科、学年、クラス等との連携 ・外部講師による講演の実施	B	・多くの教科で行ってもらった。 ・各学年を中心に実施してもらった。 ・各職務分掌と協力してできた。 ・各集会での機会ある毎に行うことができた。 ・外部講師による講演はコロナウイルスの流行により、オンラインによる開催を行った。
特別支援教育	多様な生徒への組織的な支援体制の構築	特別支援教育の理解促進	・生徒の個性および能力に応じた教育の実施 ・生徒の充実感の向上 ・保護者との連携の充実 ・職員の特別支援教育指導力の向上 ・内外機関との連携	・「個別的教育支援計画」および「個別の指導計画」の充実 ・適切な合理的配慮の実施 ・「個別的教育支援計画」作成に保護者が加わることによる長期目標の設定 ・指導力向上の為の職員研修の実施 ・SC、SSW、医療機関、福祉機関等との連携の充実	B	・「個別的教育支援計画・個別の指導計画」については、「作成の手引き」を作成者に配付し内容の充実を図った。また、個別にファイル(紙)を作成し、閲覧しやすくした。3年間使用できるファイルにした。 ・年度当初に作成する生徒を決定し、100%作成することができた。作成に関して保護者の関わりは一部の保護者に留まった。 ・職員研修については本年度は時間の確保ができなかった為、外部の研修の案内などを職員に周知した。 ・SCやSSW、関係医療機関等との連携は適切に行った。
		支援策の情報共有と職員への周知	・支援が必要な生徒についての支援策の情報の共有 ・支援が必要な生徒について全職員への周知 ・アセスメント実施により、生徒の状況をよりの確に把握する。	・特別支援検討委員会およびケース会議において支援策の決定および情報共有 ・作成した「教育支援計画」等の関係職員への配付およびデータでの共有 ・生徒理解のための職員研修の実施 ・専門家による解説を受け、アセスメント結果から分かる情報を共有し、指導に生かす。	B	・本年度は特別支援検討委員会を新たに設立し、「個別的教育支援計画等」の作成対象生徒を決定し、支援の必要な生徒についての情報共有を行った。 ・「個別的教育支援計画・個別の指導計画」は文書セキユアに保存をし、全職員が閲覧可能にした。また、個別に「移行支援シート」を含めたファイル(紙)を作成し、3年間使用できるようにした。 ・生徒理解研修に関しては、支援が必要な生徒について資料を基に職員間の情報共有を行った。 ・本年度も、心理検査の結果をもとに専門家の説明及び情報共有した。
いじめの防止等	いじめ防止推進体制の確立	・いじめ防止対策委員会及び部会の充実	・いじめ問題に組織的に迅速に対応できる職場環境の整備	・定期的な実態調査、情報交換会からの早期発見、早期対応 ・学期に1回、外部講師を招き職員研修を実施	B	・いじめ防止対策委員会及び情報交換会を年3回開催した。実態調査の報告、学校カウンセラーからの指導助言をもらいながら、意見交換を活発に行なった。 ・各学年から出席状況や学校生活の様子、気になる生徒についての情報交換を行い、未然防止に繋げた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
	研修及び啓発の充実	・いじめ問題の認識、防止への意識高揚	・いじめ問題の共通理解と未然防止へ取組の充実	・スクールサインの導入 ・「心のきずなを深める月間」を設け、いじめの啓発活動を全職員で実施する。 ・教育相談、 SCやSSWなど第3者の関係機関を活用する。	B	・6月に、職員会議を通して、「いじめをゆるさない学校、学級を目指して」として、全職員のいじめ取り組みへの意思統一を図った。 ・心配される生徒への対応もSCと学校で情報共有を継続している。 ・スクールサインの対応について、早期に対応し問題解決に尽力した。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	総合型コミュニティスクールの推進	・総合型コミュニティスクールの推進	・学校運営協議会を活用し、地域や外部機関との連携を深め、課題の解決や教育の充実に繋げる。	・学校運営協議会を年間3回開催し、学校運営等について意見を聞く。 ・学校運営協議会委員の意見を取り入れた効果的な取組を実践する。	B	1・2学期は学校運営協議会を予定どおり実施することができ、各委員の意見を聞き、その後の学校運営に生かすことができた。ただ3学期はコロナ禍でリモートによる会議とし、対面ではなかったが、今年度の成果と反省の糧となる意見が聞けると考える。
		・災害時、災害後に適切に対応できる学校運営	・危機管理マニュアルの更新、防災マニュアルの作成 ・地域住民、関係機関との連携の深化	・マニュアルの更新、作成に当たって、保健所等からも指導を受ける。 ・学校と地域の避難訓練を計画する。充実した訓練をしている地域の意見を参考にすることで、訓練の充実を図る。	B	・危機管理マニュアル・防災マニュアルを更新・作成することができた。今後の状況の変化などに対応できるマニュアルとなるよう、これからは継続して見直していきたい。 ・新型コロナウイルスにより、地域の方との避難訓練は実施することができなかった。
	地域との連携強化	・地域貢献や地域住民との交流	・地域のイベント等へ生徒を参加させる。 ・SPHでの実践を生かして、地域貢献や地域住民との交流を深める。	・地域からの要望に応じて、可能な限り生徒が参加できるよう配慮する。 ・SPHの取組を契機として、中心となる3学科以外の学科にも取組を推奨する。	B	・コロナ禍において、地域の活動も制限されることが多く、参加する機会も少なかった。 ・生徒会や吹奏楽部、応援団はボランティア等にとっても意欲的な機会を見つけないと考える。 ・益城町災害公営住宅内の公園における家具の製作及びコミュニティスペースを建設したり、江津湖の外來草の除去作業ボランティアに協力し、成果を上げた。
工業教育	ものづくり教育	・工業教育における知識や技能・技術の習得	・分かりやすい授業との回答85%、学習への興味関心意欲が向上した生徒80% ・生徒および職員の技術・技能の向上	・ICT機器等を活用した分かりやすい授業・面白い授業による学習意欲の喚起 ・熟練技能士（マイスター）を招いた実技研修会等による技術力の向上	A	・授業アンケートの学校全体の回答として、左記の「分かりやすい授業」、「学習への関心意欲の向上」についてそれぞれ、92.5%、81.4%と目標値を超えた。マイスター招聘授業について、今年は、機械科、電子科に加えて今年はインテリア科が実施した。
		・5S活動と2A運動の徹底	・事故のない安心安全な学習環境づくり ・整理整頓、掃除ができて90%	・科集会等での呼びかけや啓発による規範意識の向上 ・「安全」と「環境」を考えた教育の実践	B	・大きな事故が起きなかった。整理整頓に関する保護者アンケートの高評価は92%と目標値を超えた。5S活動と2A運動により、概ね良好な学習環境が築けた。
		・各種コンテスト・競技大会等における全国大会出場を目指した取組の推進	・ものづくりコンテスト等九州大会出場2種目 ・技能士等の資格取得者輩出	・全国大会を意識した早めの準備と年間を通じた計画的、継続的な指導 ・熟練技能士を招いた実技研修会等による指導者のスキルアップ、生徒の技術・技能の向上	A	・ものづくりコンテストにおいて、建築と土木が優勝し、九州大会に出場した。マイスター招聘については、上記のように、新たに取り組めた科があった。優れた成果が出せた。
		・ものづくりを通じた地域貢献	・実習、課題研究、工業クラブ活動等において地域に貢献できるテーマを实践	・産学官連携の継続発展（各科の横断的取組の推進） ・企業、大学、研究機関との連携・協働による推進、充実	A	・昨年度までのSPHをベースに、継続的に産学官連携ができたところと、科の事情に合わせてダウンサイジングできたところがあった。本校のKSH指定もあり、工業科全体としては、各科とも連携により新たな教育活動ができています。
	資格取得での学習意欲高揚	・資格検定への挑戦の推進	・更なる上級検定試験へのチャレンジ ・即戦力となる人材の育成	・資格検定試験の精選 ・指導資料や指導方法などの工夫と効率的な取組 ・ジュニアマイスター認定を目標とした指導	B	・資格検定試験の精選については、一部の科において実施したが、現状において、ジュニアマイスター認定数は大きく向上した。
部活動	部活動の活性化	・人間性の育成	・あいさつなどの礼儀、責任感や協調性などの態度、環境美化などに取り組み奉仕の心の育成	・競技成績の向上と社会で通用する人間性育成の両立 ・さらなる挑戦を各顧問が意識し、人間性の育成を顧問間で共通理解し指導する。	B	・挨拶、礼儀については、これまでと変わらず概ね良好である。環境美化に対する積極的な取り組みについては、やや物足りなさを感じることもある。
		・競技成績向上	・全国大会への個人・団体の出場数の増加	・『全国制覇』を共通の目標とし、各々が切磋琢磨することによる競技力の向上	A	・今年度は、野球部が甲子園大会に出場し、陸上部・ソフトボール部・ソフトテニス部・テニス部がインターハイに出場した。また、ボクシングが全日本ジュニアで優勝した。文化系では、吹奏楽部・マイコンカー部・放送部が全国大会に出場した。
		・事故防止	・重大事故の防止 ・怪我件数の減少	・5S活動の浸透、日常の整理整頓と道具管理の徹底 ・顧問や部員に対し安全面の意識づけの徹底	B	・「5S活動」を中心とした安全面については、学校の重点目標であり、意識した取り組みがなされていると感じる。 ・顧問の指導下の活動により重大事故は発生していない。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
保健安全管理	保健管理	・心身の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会の開催 ・健康診断の徹底により、指導を要する生徒の把握 ・特別支援の必要な生徒を把握 ・感染症（コロナウイルス等）の蔓延を防止（手洗い・うがい・消毒の徹底・教室の換気） 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月衛生委員会を開催し、職員の健康管理の情報を共有する。 ・生徒指導部、教育支援部等との連携による内容の把握と早期対応 ・必要に応じたスクールカウンセラー及び専門医等との連携 ・教務支援システム及び健康観察表による出席停止等の状況把握 ・全国、県下での感染症発生状況の情報提供 ・疑似者を早期把握し、予防のための環境整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生委員会については、毎月定期的を実施し、職員の健康管理や職場衛生等について協議を行った。 ・要配慮者については、関係職員・部署と連携を図ることができた。 ・毎日の出席状況を把握することにより、担任・科と連携をとり、必要に応じてカウンセリングの設定や保護者対応に繋げることができた。 ・新型コロナウイルス感染症に関しては、国・県の衛生管理マニュアルに沿った対応を実施するとともに、職員・生徒に対して、適宜、情報提供並びに注意喚起を行った。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な学校環境の確保 ・危機管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の実施 ・環境衛生検査の実施 ・事故防止及び緊急時の連絡体制を周知徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回、校内安全点検の実施 ・学校薬剤師と連携し、諸検査の実施と事後措置を徹底 ・体育的行事等での事故防止 ・部活動顧問等との連携（安全管理と安全教育の徹底） ・アレルギー疾患生徒の把握とアナフィラキシー発現時の対応についての職員への周知徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生検査及び安全点検は、計画に沿って実施できた。なお、環境衛生検査については、プール水質検査で基準値を超えたが、再検査を実施したところ基準値以内となった。 ・体育的行事や活動において、大きな事故の発生はなかった。 ・部活動においては、担当顧問と連携を図りながら、適宜、対応した。 ・資料を配布し、全職員への周知徹底に努めた。 ・アレルギー疾患生徒については、修学旅行前に個別指導を行った。